令和６年度

久美浜学園保幼小中一貫教育

9年目、新たな保育・教育の創造

久美浜学園は、久美浜の7つの、学校、園、所の総称。施設分離型の一貫教育もまもなく10年

久美浜学園保幼小中一貫教育

保育、幼児教育、小中学校の義務教育を一体とし、統一的で一貫性のある指導・カリキュラムのもと、園所、小中学校が目標や指導方法を共有し緊密に連携、協働して進める教育の方法

「目指す子ども像」

久美浜の子どもをどのように育てるか、どんな力を身につけさせるかを定めています。学校、園、所はもとより、家庭や地域でもこうあってほしいという子ども像です。子育てや教育の方向性を示し、義務教育の中で実現したい「子ども像」です。

京丹後市の目指す子ども像

〇将来に夢と希望をもって生き生きと学ぶことのできる子ども〇
- ・基礎・基本を確実に身につけ、質の高い学力をもった子ども
- ・規範意識をもち、豊かな人間関係を築く子ども
- ・自分を高め続ける、たくましい心と体に満ちた子ども

久美浜学園の目指す子ども像

（知）意欲的に、質の高い学力を身につけようとする子
（徳）自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子
（体）心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子

第2期京都府教育振興プラン(目指す人間像)

〇めまぐるしく変化していく社会において、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、よりよい社会と幸福な人生を創り出せる人

久美浜学園保幼小中一貫教育のホームページをぜひご覧ください。☞
http://www.Kyoto-be.ne.jp/kumihama-jhs/cms/

久美浜学園保幼小中一貫教育は９年目。まもなく10年がたとうとしています。保幼小中一貫教育が広く市民に認知されてきた今、保育・教育内容の充実を目指し、確かな成果をあげていく時期に入っています。また、当初に目指した目標も達成されたものについては見直し、より高い質の目標に切り替えていかなくてはなりません。

昨年度、久美浜学園では、市授業研究会を契機に授業改善が進みました。リーディングDXスクール事業の指定研究やギガスクール構想による一人一台タブレット使用など、子どもたちが主体的に考え学びを進める授業を具体化することができました。子どもたちが主体的に活動することを促す保育や幼児期の教育との関連も見えてきました。

一貫教育が始まったとき年長児だった子どもたちが中学2年生になります。まるまる一貫教育の中で育った子どもたちです。どのような姿で義務教育を終えさせることができるか、成果が問われます。

学園教育目標

ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成

「目指す子ども像」から始まる様々な目標が、久美浜学園の教育の方向性です。どんな子どもを育てるのか、何を大事にして日々の具体的な活動をするのかなどの指針になります。これを学園で統一して目指し進めます。

重点目標

意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成
～子どもの実態や系統性を踏まえた指導～

指導の重点【学力向上】

1　基礎・基本の徹底
2　主体的に学ぶ力の伸長(授業づくり)
3　家庭学習時間の確保

「学力向上」が、5年目から10年目までの重点課題です。1時間ごとの授業の充実、具体的な学力定着の方策など、教職員が一丸となって取り組んでいきます。

取組の柱1

10年間の幼児児童生徒の成長発達に全教職員で責任を持つという意識の向上（教職員の協働）
　〇全教職員がチームとして、みんなでやるという協働意識を醸成する。
「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を推進（学力を高める授業づくり）
　〇学園テーマとして「主体的に学ぶ力の伸長」を設定し、幼児児童生徒が自ら考えを深める授業を創る。
　〇認知能力、非認知能力の一体的伸長を図る。
　〇「リーディングDX事業」の先進事例をもとに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進する。

「主体的･対話的で深い学び」を目指し、子どもが関わり合って学習を進め、主体的に学ぶ力を伸ばします。1人1台のタブレット、クラウド環境を使うなどICTを活用します。

丹後や久美浜を学ぶ「丹後学」を進め、ふるさとを愛する心を育てます。
「地域の中の学校」を目指し、学校が地域に溶け込み、地域を学び、地域で学ぶ子どもを育てます。

取組の柱１は「教職員の協働」と「学習・授業」にかかわる内容です。中学校は一つですが、園所、小学校は3つに分かれています。教職員の連携と協働が極めて大事です。学力は、ここ数年、各種テストで少しずつ上がってきていて成果が出ています。GIGAスクール構想により1人1台タブレットの使用と昨年の「リーディングDX」研究により、急速に授業改善が進み、子どもたちの学びの様子が変わりました。クラウド環境の活用で「個別最適な学び」「協働的な学び」が一層進みます。

年間数回、学園の教員が授業を参観し合い、話合い、指導方法を学び合い、教員の指導力を向上させます。

取組の柱２

規範意識の醸成を基盤とした落ち着いた学校・園所づくり、授業づくり

〇生徒指導の４つの視点(自己決定、自己存在感、共感的人間関係、安心・安全な風土の醸成)を活かした「授業づくり」と「学級経営・特別活動」の充実により規範意識を醸成し、学ぶ意欲を育成

〇学習の基礎・基本を徹底し、基盤となる力を十分付け、互いに認め合い、励まし合い、支え合える雰囲気づくり

生徒指導の4つの視点を意識して授業を作っていきます。仲間と協働し、認め合い、励まし合い、支え合える人間関係を築かせます。

学級活動やチーム活動、異年齢活動などをとおして、みんなで力を合わせ協力することを学ばせます。集団として一つのものを創り上げる喜びや感動を味わわせます。

取組の柱２は、生活です。子どもたち自身が、集団としてまとまり、落ち着いた雰囲気を保ち、意欲に満ちた集団活動を創り上げることを目指しています。毎年、質の高い活動が生れています。また、年齢が上がるにつれ、しっかりした態度で授業や集会・式に臨む姿が見られます。1時間1時間の授業や一つ一つの活動を大事にすることで、まじめに取り組む態度や頑張ることが認められる集団ができます。

取組の柱３

子どもの交流行事、教員の指導交流の推進による行動連携

〇共に学ぶ意識を育て、子ども同士を結び付ける交流行事・交流授業

〇豊かな教科指導を目指す教員の指導交流

5歳児交流会でかぶと山登山

同学年で交流する小小連携学習

6年生の部活動体験、合唱祭参観、授業体験

体験授業

専科授業

児童会生徒会あいさつ運動やSDGsの取組

養護部SNS出前授業

中学生と園児との交流

winter concert

園所職場体験

学園間の交流事業は、充実して進められています。小中間、幼小間、また、中学校と園所と校種間での交流が行われています。児童会生徒会での連携では、年間3回以上役員が合同会議をしています。あいさつ運動だけでなく、SDGｓの取組が学園全体に広がっています。園所の子どもたちが、中学校にペットボトルキャップを持ってきてくれたり、小学校が子ども服を集めてくれたりしました。小学校の専科授業は、中学校教員が理科と外国語を行っています。養護部では、ＳＮＳ出前講座を園所で実施しています。

取組の柱4

保護者、地域とともに「久美浜を支える人づくり」の視点に立った取組
〇PTA・保護者会、学園学校運営協議会、地域学校協働本部との連携
〇家庭学習時間の確保に向けた連携

久美浜学園学校運営協議会

子どもたちを心豊かに育て、「久美浜を支える人」を育てる教育環境づくりを進めるため、地域、家庭、学校が、目標や課題を共有し、連携・協働していきます。子どもにかかわる様々な活動をされている団体や機関の方に、年間3回の会議(5/21、10/31、2/27)に出席していただきます。学園の基本方針の承認、学園の取組や活動評価の報告、学園の教育について意見聴取、学園の取組参観などを進めます。学園の頼もしい「応援団」です。

地域で活躍する子どもたち～敬老会出演、ふれあい祭り参加、中3夏休み地域ボランティアなど。

見守り隊の活動～毎日たくさんの方が、通学路に出ておられます。

地域遊び教室～今年度は3地域とも実施予定。

学校支援ボランティアと地域の支援による学習

久美浜学園PTA・保護者会

会長会議、家庭教育委員会は、小中学校と園所保護者会から参加し、学園として統一してできる取組を考えていきます。
〇一斉あいさつ運動(6/4、10/3、1/10)
〇家庭学習がんばり週間(学園の取組と連動して実施)
〇規範意識を醸成するためのSNSに関する教育講演会の実施

学園あいさつ運動

SNS教育講演会

保幼小中一貫教育に係る成果と今後の課題

1　地域と協働した取組や、児童生徒の主体的な活動の活性化

アフターコロナにおいては活動制限が原則撤廃され、学校園所の子どもたちが地域に出向いての体験や学習が実施しやすくなり、大変活性化した。同時に、地域行事に子どもたちが集う本来の風景も戻った。また、「夏みかんの日の取組」や「SDG’sの取組」も、児童生徒の創意工夫によりさらに充実したとともに、学園全体や町内外の地域へと広がりを見せ、高い外部評価も頂いた。

2　一貫教育の枠を超えた校種間連携の充実と、「子どもの育ち」の共有化

園所参観・懇談を実施することができ、学園の全教職員が「幼児期までに育ってほしい姿」を共有した上で、発達の段階に応じた円滑な教育実践を展開できた。また、形態の異なる３つの園所が一体となって取り組んだ踊りの取組や、キャリア形成の視点で取り組んだ地元高等学校との遠隔交流事業など、義務教育を括りとしない新たな具体的取組を展開し、大きな成果を得ることができた。

3　市授業研をきっかけにさらに深化した、「新たな授業づくり」の取組

11/16に開催された「市保幼小中一貫教育授業研究会」での成果発表に向けた、全ての園所・小中学校での保育・教育実践が充実した。学習指導要領等に沿った「協働的な学び」を踏まえた授業づくりの工夫・改善は、子どもたちの学習意欲に結び付き、学力も全体的に向上しつつある。

4「学びに向かう力」を伸ばす教育のさらなる推進

夏季全体研修会での大学院教授による講演を皮切りに、中教審答申の「令和の日本型学校教育」で示された「認知能力と非認知能力の一体的伸長」を目指した実践が、本学園でも重点的に進んできた。知識偏重になりがちだったこれまでの学びの質が変容し、「何のために学ぶのか」を自ら考え「学びに向かう力」を育てる新たな学力観のもとで教育が進んだ。

◆ 学習指導要領・教育要領・保育指針、改訂生徒指導提要に沿った教育・保育の推進

教師が「させる」のではなく、子どもが自ら考え、行動できる力を育むための「発達支持的生徒指導」を学園の全教員が共通理解した上で展開する。「協働的な学び」の充実や、主体的なきまりやルールづくりの活性化などを大切にした「新たな生徒指導」に係る資質向上のための研修を充実させていく。

◆ 魅力ある学校園所づくりの推進（子どもの能力を引き出す環境づくり）

長期にわたったコロナ禍により、子どもたちの耐性やコミュニケーション能力、体力などの低下が課題になっている。魅力ある学校園所づくりをさらに進め、本来の子どもたちの能力を安全・安心な「居場所」で十分に引き出せる、「環境づくり」が急務である。

◆ 多様な「学びの保障」を実現する、きめの細かな学習指導の推進

子どもの実態や社会の多様化に伴い、「学びの保障」も多様化してきている。オンラインやＩＣＴを活用した個別支援や家庭学習の質の向上、不登校児童生徒の別室機能の充実など、これまで以上にきめの細かな学習指導を進めていく必要がある。

◆ 地域で伸ばす、一人ひとりのキャリア発達

久美浜学園学校運営協議会を核に、地域全体が協働して子どもたちの望ましいキャリア形成に資する横断的な取組をさらに進める必要がある。「丹後学」をベースに据えた探究的な学びを、地域人材や諸施設、事業所、地元高等学校、ICT環境など、あらゆる教育資源を活用し、今後さらに系統的に進めていく。